

## 探 Q（複数の視点で考えるカフェ） ガイドからの提案・お知らせを少し

a 「もやっとしていること」、「消化できずにいる経験や感情」、「きまり・原則だから従うのが当然だと思うけれど、その原則になんとか違和感がある」等。他の人のそういう話を聞いて、考えたい。自分のそういう話を他の人がどう思うか聞いて、考えたい。比較的少人数で（場所によりますが 10 名程度まで）、複数の視点で考えるカフェ。各々のとまどいや問いを聞くことに始まり、その場で「共有する問い」を作り、ゆっくり（徹底的に）考えることと、カジュアルにいられる場になることのつながりも重視します。

[探 Q ちいさな（哲学）対話カフェや探 Q 原則から考えるカフェもこれに含む]

b 「読む」や「見る」の場に居合わせる人たちで、（短い思考だけでなく）じっくりと、複数の視点で考えるカフェ [読書会（読書ツアー）もこれに含む]

c 自分や自分の友人（何らかの意味で友だと思う人）の「マイナーな面」にかかわる生・主題・調査・表現等について、複数の視点で考えるカフェ。ただしこの c はスタートからしばらく非公開形式になるものが多いかなと、わたしはいまそう思っています。

d 学校（ガイドの菊地の場合、大学の講義やゼミ）で取り上げていることを、成績評価や大学の（教員・学生）メンバーにとらわれずに、また、これまでの学校での教え方にとらわれずに、複数の視点で考えるカフェで考え直す連続企画

「探 Q（複数の視点で考えるカフェ）」という試みの開始と継続・変化は、a-d の全てに共通するものです。あなたの生と知の一面として試してみるのはいかがでしょうか。「こういう内容はどうか」、「ここで開くのはどうか」等、提案もお待ちしています。

普段の友人の中に「複数の視点でじっくり考える（哲学する）友」がいることもあるでしょうが、そうでない友人・知人関係のほうが多いと思います。しかし、「あなたとわたしで、あなたの本気の問いを共有したからには、急かされたりおどされたりせず、ゆっくり徹底的にそれについて考えましょう、聞きましょう、話しましょう」とする中で、ただそれだけで、これまでのつきあいがどうかにかかわらず、「哲学する友になること」もまた開かれる。そういう楽しみ・驚き・安心感も経験するかもしれません。

菊地建至 「お知らせ」等を通知するツイッターアカウントもあります。@tanQarc  
ブログ「きくちの楽屋 2013/14」 <http://kikutinogakuya2013.blogspot.jp/>

## 探 Q ちいさな（哲学）対話カフェ@難波

2014年9月27日、まちライブラリー@大阪府立大学 [a もお読みください]

以下は、提案です。取り組んでいるうちに、疑問やちょっとこれを変えてみようということが出てくるのも当然だから、そういう時は参加者どうして話しましょう。

1 順に、ここで呼ばれたい名前と、a の冒頭のテーマからひとつについて短く話してください。そこから「(まずみんなで話し始める) ひとつの問い」を決めましょう。

2 わたしも一人の参加者ですが、ガイドも務めます。ガイドは、主に二つのことをします。ひとつは、時間をみることです。もうひとつは、ときどき提案をすることがあります。採用するしないは参加者のみなさん次第です。たいていの場合、ガイドとしてというのではなくむしろ、率直に、わたしが「疑問がわき、考える人として」そうしているということもわかってくださるんじゃないかな。例えば、こんな提案です。ここにもうちょっととどまってじっくり問い話すのはどうですか。流れよく軽快に進んでいるようなときに、これってどうなんでしょうか。こんな見方・考え思いついたんですが、等々。

3 むずかしい技術やルールはありません。あらかじめ形式を縛ることも重要ではありません。しかし、共有したいことはあると思っています。たとえば、あなたが聞く問いはその人にとって本気の問いだから、問うことによって茶化されたり攻撃されたりすることはないという場でありたい。人を見下げないでくれたら。また、何か審判する人みたいな気ですつといるのでないほうがいいかな。そういう個人的な「共有したい」思いはありますが、ルールにすることではないでしょう。あなたが重視するのは、どういうことでしょうか。また、参加者の身近な出来事や相談のようなことも聞かれるでしょうが、気安く個人的なアドバイスをすることに集中するのではない、むやみにプライバシーに立ち入るというのではない、そういうことは、難しくとも気をつけたいことです。

●人は、自分の発言や行動が自分からすいぶん離れていると思うことがある。本気の「もやもや」や「消化できずにいる経験」や「問い」を、他人を前にして、また、自分に対しても率直に問い考えないままに悩んでいることがある、ということかもしれません。この探 Q ちいさな（哲学）対話カフェは、「自分が言いたいこと（聞いてほしいこと）、自分が問いたいことはこうなんだ」という経験や「他人と対話することや複数人で問い考えることによって変わる」経験があなたに生じることも願いつつ進めます。